

2010年10月22日 東日本区1998~2011 ヒストリアン 吉田 明弘

## ワイズの信条

近年、東日本区の「Handbook & Membership Roaster」の表紙裏には、『ワイズの信条』が掲載されています。これは、別名『五つの誓い』ともいわれています。

ここで、「東日本区」と繰り返したのは、西日本区では「Roaster」に掲載していないからです。

### ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう
2. 青少年のために YMCA につくそう
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう
4. 義務をはたしてこそ、権利が生ずることをさ  
とろう
5. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨と  
しよう

現在、東日本区においては、湘南・沖縄部と富士山部の全クラブと、札幌、仙台青葉城、東京江東、千葉、東京グリーン、東京ひがし、東京世田谷、東京まちだ、東京コスモス、東京銀座、甲府、東京武蔵野多摩、甲府 21、東京八王子、東京たんぼぼ、東京セントラル、富士五湖など、合計約 40 クラブが例会で唱和し、増加傾向です。

西日本区では、例会プログラムに入れているクラブは、大阪枚方、大阪長野、北九州、福岡中央、博多オーシャンなどと少なく、その存在自体を知らないクラブもあるようです。

東日本区では、1999 年に中田靖泰区理事（札幌）が、『ワイズの信条』の由来とクラブ例会での採用実態の調査を指示し、その上で、用語を統一して、採用するしないは、各個クラブの意志に任せるとして、「Handbook & Membership

Roaster」に掲載することを提案しました。1999 年 11 月の区役員会で、これが承認されました。実際の掲載は遅れ、2005 2006 年度（浅見隆夫区理事・東京グリーン）からです。

由来については、その時点では、熱海クラブから生まれたいという説がありましたが、特定されるに至らず、謎として残されていました。

## ワイズの信条の起源

今回改めて、起源の調査を行いました。判明したことを順に記述します。

伊東クラブのプリテン（2010 年 4 月号）に、「（ワイズの信条は）伊東クラブ創立時、親クラブの熱海クラブから引継がれたと聞いていた。同クラブに確認したところ、どこから引き継がれたのか、誰が作ったのか分からないとのことだった」と、同クラブの山田誠さんが書いていました。

熱海クラブの創立メンバーの竹内敏朗さん（現熱海グローリー）に 1998 年に、質問したことがありました。不思議なことに、あの明晰な記憶力の持主の竹内さんから、そのことについての明確な答えは得られませんでした。

ということで、まずは熱海クラブの文献からあたるのが先決、時期は、伊東クラブが設立された 1976 年以前ということに焦点を定めました。

1973 年に発行された熱海クラブ『創立 10 周年誌』の頁をめくり、1968 年 2 月 5 日に「ワイズの信条を額に入れ、500 円で会員に販売」という記述があるのを見つけました。同クラブは、その前年の 1967 年 6 月にクラブ総務委員会名で『会員の常に心掛くべき点』を、6 項目を掲げていますから、『信条』もそうしたクラブ内の流れの中で生み出された可能性がありました。

### 会員の常に心掛くべき点

1. 例会には皆出席すること
2. 会合の時間は厳守すること
3. 会費はきちんと納めること
4. 積極的に委員として働くこと
5. 新会員の獲得に心掛けること
6. 常にクラブをPRすること

これと同じ内容のものは、1962年頃、大阪クラブが作った会員募集のパンフレット『Are you Y's OR otherwise』にもあります。国際協会の『50 Y's Suggestions for Y's Men』から引用したものです。大阪クラブは、戦前にも『Are you Y's OR otherwise』を新会員募集用にまとめています。

その後、加藤利榮さん（横浜とつか）から、大阪サービスオフィス（後述）が1968年5月に発行した6つ折りのパンフレット『ワイズ・メンズ・クラブとは』に、『信条』とほぼ同じ内容のものが、『ワイズメンズであるには』という見出しで掲載されていると知らされました。

### ワイズメンズであるには

1. 自分を愛するように隣り人を愛しよう。
2. 青少年のためにYMCAにつくそう。
3. 世界的な視野を持って国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさとう。
5. 出席第一と奉仕第一を旨としよう。

大阪サービスオフィスは、1961年に大阪YMCA 総主事を引退した奈良傳さんが、1963年に大阪YMCA 内に開設したもので、ワイズ文献の翻訳・制作をしたり、物品の取り扱いをしていました。奈良さんは、1960年から文献委員長を務めていました。

熱海クラブ額入りの『信条』の販売決定が、1968年2月、大阪サービスオフィスの『ワイズ・メンズ・クラブとは』の発行が同年5月ですから、それぞれの制作や判断に要する期間を考えると

ほとんど差がありません。もしかしたら、『信条』は大阪で作られたのかもしれませんが。

加藤さんには、現物の送付を依頼して、もう一度、東日本区事務所の資料保管庫を確認しました。そこで、前ヒストリアン・齊藤實さん（当時東京北）が、前記の熱海クラブの記念誌から、1967年12月15日に同クラブが行ったクリスマス家族会の式次第に『ワイズの信条』の文字があることを発見していた記録に気づきました。これで熱海クラブが、さらに3カ月ほどリードしたことになります。

加藤利榮さんから送られた他の資料にも収穫がありました。期日は不明ですが、加藤さんの記憶では、1965年ごろ熱海クラブが作成したプリントがありました。

### 無題

1. ワイズメンズで良い習慣を育てよう
2. ワイズメンズで生活を豊かにする技術を学び創造力を育てよう
3. ワイズメンズで良い友人を見出そう
4. ワイズメンズで奉仕の喜びを知ろう
5. ワイズメンズのグループで社会における責任感を養おう

### 熱海ワイズメンズクラブ

熱海クラブのメンバーがクラブ生活を通して何を学ぶかを模索していた様子がうかがえます。

1968年5月発行の『ワイズ・メンズ・クラブとは』は、第6版です。『ワイズ・メンズ・クラブとは』は、1966年4月に大阪サービスオフィスが発行した「国際ワイズメンズクラブ会則」の巻末にも、クラブに備え付けるべき最少限の文献として、新会員募集用（1部20円）と位置付けて紹介されています。これは何版か不明ですが、もしこのパンフレットに『ワイズメンズであるには』が載っていれば、『信条』の起源は、1966年まで遡ることになります。

さらに、6版よりも若い版が見つければ、作者

はもっと絞られる可能性がありました。しかし、今回は見つけることは出来ませんでした。

## 熱海か、大阪か、それとも

文献上の追跡はここで行き止まってしまいました。後は推測となります。

原典は、国際協会、あるいは米国ということも捨て切れませんが、内容的にも日本のワイズメン活動に即していますし、日本語として非常にこなれています。当時の翻訳とは思えません。

熱海クラブだとすれば、同クラブが、それまで検討してきたものと、『信条』とは、いささか内容もトーンも違ってきます。

創立 3 年ほどのクラブがこのようなものにまとめるには、ワイズとしての力量を要します。その点について、加藤利榮さんは、「竹内敏朗さんは、横浜クラブで副会長を務め、BF 代表として米国を訪問していたし、設立 2 年半ほど前から、数人の入会候補者も毎月、横浜クラブの例会に出席していたから、下手なメンバーよりもワイズを理解していた」という見方をしました。

熱海クラブには、かつての南東部の融和の象徴だった名曲・南東部ソング「ワイワイ ワイズは、世界の南東部」の作詞者・野本寛さんをはじめ、錚々たる才人がおりましたから、メンバーの誰かの提案である可能性は考えられました。

大阪サービスオフィスが文案を作ったということも十分あり得るのですが、それならなぜ、『信条』が、関西地域、特に当時からあった中西部のクラブにほとんど普及しなかったのは不思議です。当時の奈良傳さんの影響力は絶大だったはずですから。普通であれば、はやしたてるフォローがないのも気になりました。

奈良さんのもとで、文献作りに参加した今村一之さん（大阪土佐堀）に問い合わせました。返事がありました。「『ワイズの信条』は、こちらでは、殆ど知られていません。大阪土佐堀の場合は、ワイズソングで始め、YMCA の歌でめめます。『信条』は 熱海の 竹内さんたちあたりでは？」

ここへきて、振り出しに戻ってしまいました。状況証拠からいえば、熱海クラブです。当時の熱海メンバーが、現在熱海グローリークラブに多く在籍されていますから、真相を知っている方はいる筈です。これは、むしろ話されないのではないかと思います。

国歌の作者が明らかにされていなかったり、文部省唱歌の多くが作曲、作詞が不詳となっているのと同様に、みなで用いるものは特定の個人にくっついていない方が良いという判断もあります。

それでも、竹内敏朗さんにもう一度尋ねました。思いがけない返事が返ってきました。

「こういうことは、黙っていた方が良いと思って、以前はとぼけたけど、もう良いと思う。熱海クラブが、創立のときに、まとめていたよ。」

当時は、日本のワイズメンズクラブの中心は、なんといっても大阪クラブと東京クラブでした。そういう状況下で、YMCA のない地方にクラブをつくる場合、他の奉仕クラブとの違いも問われるため、最初に、どういうクラブなのか、なにを目指しているかを、明確に示して、路線を決めておく必要があったのです。それが、続いて設立される新クラブにも良い影響を与えると考えたそうです。

竹内さんは、1962 年の BF 代表でした。出発前に奈良傳さんと、帰国後、新クラブを設立することを約束していました。5 か月間、米国の 3 つの区大会に参加し、54 のクラブを訪問した旅は、新クラブのありように思いを巡らせるものでした。

何よりも、出席率 100%、地域に密着して、国際性のあるクラブにすることが当初からの目標でした。他の奉仕クラブの現役やOBも参加したので、『信条』に盛り込む内容、用語については、さまざまなものを参考にし、奈良傳さんにも意見を求めたそうです。両者のこだわりの相異は、前掲『ワイズメンズであるには』の下線部分に垣間見ることができます。

順当とも、意外ともいえる結末でした。

前記のとおり、『信条』は、区発行のパンフレットによって全国のクラブで公表されました。

1975年の区報75号では、藤本昇区理事(神戸)が、熱海国際大会において『ワイズメン五つの誓い』の大きな葉をメンバー数だけ配ると予告しています。このことを最後に、区レベルで、『信条』が話題になることは、ありませんでした。

### 信条の意味

この『信条』は短い文で、ワイズメンズクラブの姿を表現しています。

### 自分を愛するように隣人を愛そう

ワイズメンズクラブの国際憲法は、その綱領に「イエス・キリストの教えに基づく」とあります。イエス・キリストの教えは、聖書に数多く記されていますが、その中でも黄金律とされるのは「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」です。『信条』は同様の内容を冒頭に掲げています。

### 青少年のために YMCA につくそう

国際憲法では、クラブの目的は、「まず第一に YMCA のためのサービスクラブとして活動する」としています。このことが表現されています。

現在の YMCA は、対象が広がり、活動も多彩ですが、当時、日本では、青少年の健全育成を主な目的としていましたから、自然な表現だったでしょう。

### 世界的な視野をもって、国際親善をはかろう

国際憲法で、ワイズメンズクラブを「相互理解と敬愛の思いで結ばれる」「世界的友好団体である」としていますが、そのことが謳われています。

### 義務を果たしてこそ、権利が生ずることをさとう

これは、ワイズメンズクラブの不変の国際標語「強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う(当時の訳は「権利に伴う義務を承認する」)の言い替えです。

### 会合には出席第一、地域には奉仕第一としよう

クラブは例会に参加することで始まること、同時に、クラブ内にだけにとどまらないで、地域に目を向けて汗を流そうということで、このことを活動の中心に位置付ける宣言です。

### 信条のクラブでの用い方

この『信条』の例会での扱いはクラブによって差があります。

採用しているクラブのほとんどが、例会の開会時に、司会者のリードで参加者全員が唱和しています。

東京まちだクラブは『国際標語』(強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う)を『信条』の前に唱和しています。

富士クラブは、この『国際標語』と『信条』に加えて、国際会長をはじめとして、各「長」の『主題』を唱和しています。

東京山手クラブ、東京白金高輪クラブは、『信条』ではなく、『国際標語』を唱和します。

東京白金高輪クラブの小杉義信さんは、ブリテン(2010年9月号)で、次のように述べています。

「(国際大会の報告を聞いて)毎回の例会で、私たちはワイズンのモットー(国際標語)を唱和していますが、それが単なる形式的な唱和に終わるのではなく、世界のワイズメン、メネットとともに連なっていることを思いつつ、心から唱和したいなと思いました。」

熱海クラブは、当初、「信条」単独ではなく、『信条』の前に『国際標語』後に『目的』(国際憲法)のセットにしていました。

上記の熱海クラブの記念誌の「会員所感」の中で同クラブの藤井銀次郎さん 現熱海グロウリー が、次のように述べておられます

「(前略)隣人愛、YMCA 奉仕、国際親善、義務と権利、出席と奉仕、目標に不足はない、生きた証として、何をなすべきかであろう。これは、まさに『五つの誓い』そのものです。当時の熱海クラブの中で、血肉化されていたように感じます。

岡本尚男さん（京都キャピタル）は、2010年1月に行われた東日本区フレッシュ・ワイズセミナーの講師として、信条の「青少年のためにYMCAにつくそう」に触れました。

『信条』という言葉は、辞書によると、固く信じている事柄、信仰の箇所、とあります。そういう意味からすると、これは個人の思想、信条であって、クラブとして、皆さんが同じように唱和して誓いをあらたにすることについては、私が理事の時に違和感を抱きました。少なくとも京都部にはありません。（中略）逆説的に言えば、「YMCAは青少年だけのために働いているのか」ということになります。（中略）」

「ワイズメンズクラブの『目的』が、クラブとしての団体の姿であり、『ワイズの信条』を『私の信条』として、それぞれのワイズメンがその年の計画にそったものにしたら、バラエティーに富んだものとなり、多くの奉仕の実践につながることでしょう。」

伊東クラブは、2010年2月例会をEMCセミナーとして、ベテランメンバーが『ワイズの信条』を1項目ずつ解説しました。これまでになかった発想です。これは、私見ですが、ワイズ用語や事業の解説などよりもワイズメンズクラブの基本を伝えることができると思います。

## あとがき

誰が、いつ作ったかも大事ではありますが、新設時に、熱海クラブが自分たちのクラブ活動の意味を問いながら、クラブ作りを進めたことに感銘を受けました。この青っぽさが、今のワイズメンにも必要なのではないのでしょうか。

私が南東部で一緒だった頃、熱海クラブは別格でした。会員数は50人を超え、活動もスケールが桁違いでした。ですから、他のクラブは驚いても、負けずにやろうという風にはなりませんでした。「熱海なら、さもあらなん」という受け止めでした。ある時期の京都パレスクラブと同じだったかも知れません。多くの有力会員を擁して、力

任せという印象がありましたが、その裏では自分たちの活動の意義を懸命に模索していたのですね。これは、私たちが知らなかった熱海クラブの氷山の水面下の部分です。

こう書きながら、私のクラブ、東京西クラブでは『信条』を用いていません。10年ほど前に、クラブ役員会に提案が出ましたが、承認されませんでした。その理由は、記憶にありません。

私個人としては、大変読みやすいし、ワイズメンズクラブの精神と、大切にしようとしていることを簡潔に表現していると思います。しかし、例会での採用には積極的になれません。

もしかしたら、他の人が作った優れたものに対して、やっかむ気持ちがあるのではないかと、自問していますが、それはないと思います。

ひとつは、プログラム構成上の問題で、例会のあたま部分が重くなるからです。私たちの例会は、ワイズソング、聖書朗読、感謝、会長による挨拶とゲスト、ビジターの紹介があって、食事になります。そこに信条が入ると、初参加の方にとって面くらうことが多すぎるように感じます。

もうひとつには、きれいにまとまって分かりやすいこと、すべてが見えすぎる、逆に何か大切なものが抜けているのではないかという思いがあるのです。

また、例会の開会セレモニーの中に加えるなら、世界共通ものになりたいという思いがあります。

しかし、私の思いとは別に、見える形のYMCAがない地域に新しく生まれるクラブの増加、会員構成の変化から、ワイズメンズクラブが何か分りやすい『信条』を採り入れるクラブは、今後、ますます増加すると思います。

余談ですが、熱海の名所、熱海梅園の入口付近には、熱海グローリークラブが、国際協会75周年を記念して1997年に建てた時計塔があり、その石碑に、「自分を愛するように隣人を愛そう」という『信条』の冒頭が刻まれています。